

# 四日市市総合計画の検証・総括

## 〔2011年度→2020年度〕

平成30年12月18日

四日市市 政策推進部 政策推進課

### 目 次

1. 現総合計画が目指したまちの将来の姿	
(1) 総括の視点	2
(2) 総合計画の全体構造	2
(3) 現総合計画の体系図	3
2. 基本計画の検証とまちづくりの推進	
(1) 基本的政策の検証	4
(2) 重点的施策の検証	4
3. 基本構想の検証と将来像の総括	
(1) まちづくりにおける主要指標の動向	6
(2) 市民の声	8
(3) 総括	10

## 1. 現総合計画が目指したまちの将来の姿

四日市市では、平成 23 年度から 32 年度までの 10 年間で計画期間とする四日市市総合計画〔2011 年度→2020 年度〕に掲げた将来都市像『みんなが誇りを持てるまち四日市』の実現に向け、積極的なまちづくりを進めてきました。

そして、基本計画では、基本構想に掲げた将来都市像と 3 つの理念「安心」、「元気・魅力」、「絆」のあるまちを目指し、これを実現するための 5 つの基本目標に関して、19 の「基本的政策」と 69 の「重点的施策」を示し、取組を進めてきました。

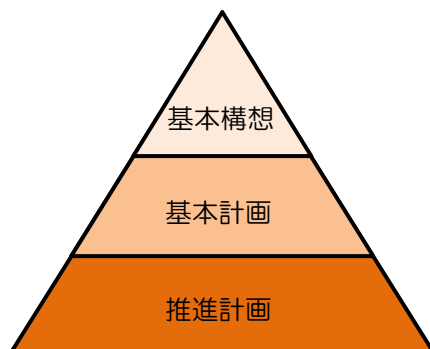
### (1) 総括の視点

平成 32 年度までを計画期間とする現行の総合計画の終了を待たず、情勢の変化が目まぐるしい近年の社会構造の変化を的確に捉え、新たな時代への対応を確固たるものとし、四日市市の夢のあるまちづくりの実現に向けて、市民、各種団体、企業等の方々の意見も十分に踏まえ、新たな四日市市総合計画を策定していきます。

そのためには、現総合計画に位置付けられた各取組の結果を総括し、そこで得た知見等を今後の市政運営の改善につなげていくことが重要となることから、各事業における実績や成果、次期総合計画策定に向けた検討課題等を明確にするとともに、重点的施策の実施状況について総合的な評価を行いました。

### (2) 総合計画の全体構造

総合計画は“基本構想・基本計画・推進計画”の 3 層構造



基本構想：本市の目指すべき都市像や基本目標を示すもので、まちづくりの方向性を明らかにするもの。

基本計画：目指す都市像を実現するため、施策の方向性を示すもの。

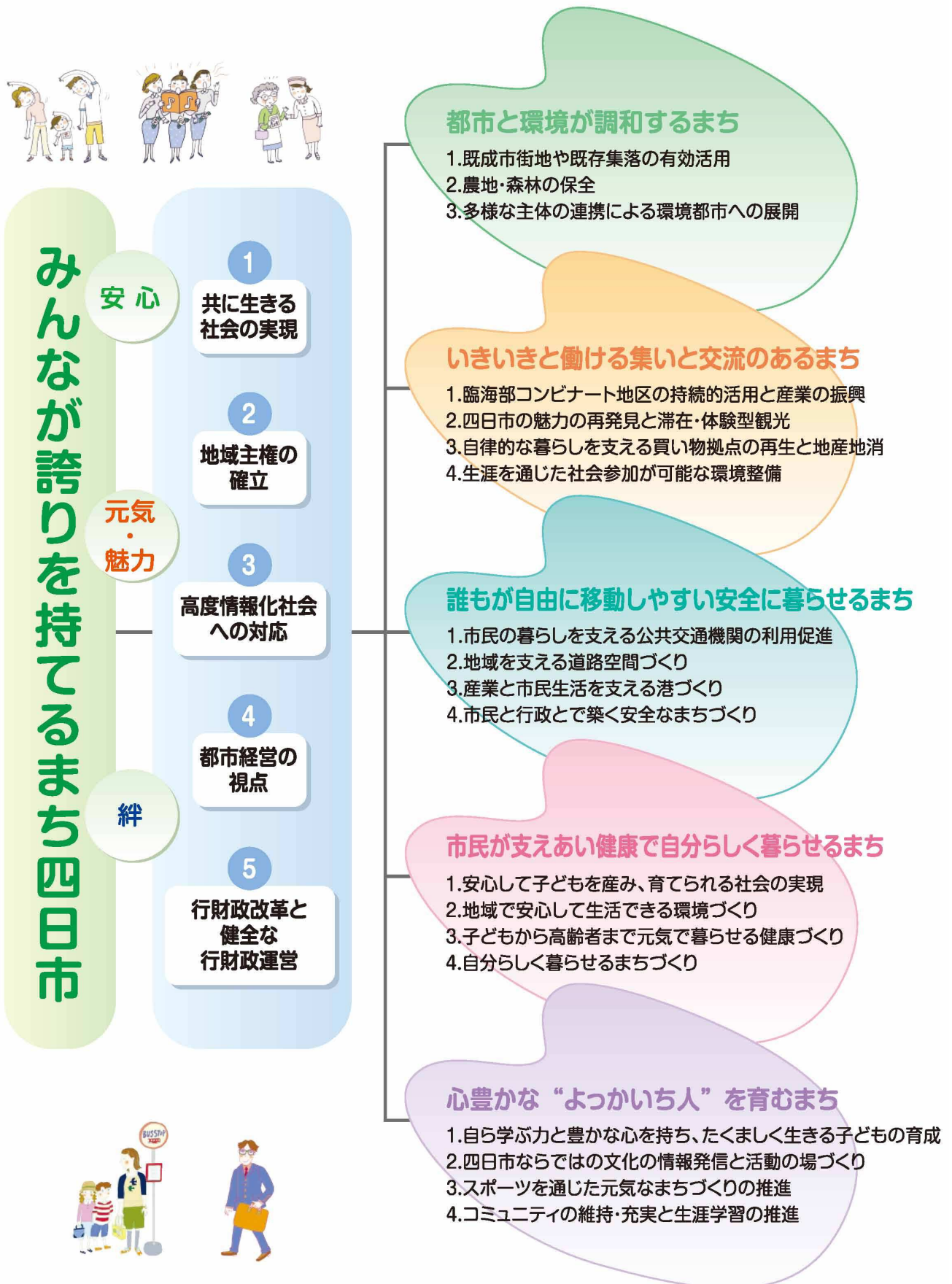
推進計画：基本計画に掲げる施策の方向性に基づき、具体的な実施事業を示すもの。

## 四日市市市民自治基本条例(理念条例)

(総合計画)

第 18 条 市の執行機関は、総合計画(本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るために定める基本構想並びに基本構想を具体化するため行政運営の基本方針等を定める基本計画及び推進計画で構成されるものをいいます。)を作成し、効果的かつ効率的に市の施策を推進するとともに、その進捗状況を公表するものとします。

(3) 現総合計画の体系図 ～みんなが誇りを持てるまち四日市を目指して～



## 2. 基本計画の検証とまちづくりの推進

基本計画では、5つの「基本目標」の下に19の「基本的政策」と69の「重点的施策」を掲げ、『みんなが誇りを持てるまち四日市』の実現に向けて取組を進めてきました。

基本目標に沿って政策や施策をどの程度実施できたかを明らかにするため、目標ごとにこれまでの取組を振り返りながら、基本的政策と重点的施策の検証を行いました。

### (1) 基本的政策の検証

#### ① 検証の視点

- ・基本目標ごとに、その実現に向けて位置付けた基本的政策の取組状況を検証し、基本目標に沿ったまちづくりについて、主な実績と成果をとりまとめました。
- ・また、次期総合計画策定に向けた検討課題を把握するとともに、若手・中堅職員と政策推進監で構成する「分野別政策検討会議」で検討のあった政策テーマを併記し、今後のまちづくりに向けた課題の整理を行いました。

基本目標	(別冊) 該当ページ
1 都市と環境が調和するまち	P 2 ～ P 4
2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち	P 5 ～ P 8
3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち	P 9 ～ P 12
4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち	P 13 ～ P 16
5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち	P 17 ～ P 20

#### ② 指標・数値目標

- ・基本目標ごとに、第1次～第3次推進計画において設定した指標および数値目標の実績を検証し、達成状況を取りまとめました。
- ・第1次・第2次推進計画では、いずれも数値目標を達成した項目が4割弱、未達の項目が約6割となりました。
- ・達成した目標は、第3次推進計画において、「みんなが誇りを持てるまち四日市」を目指して、さらなる目標設定を行いました。

### (2) 重点的施策の検証

- ・69の重点的施策について、総合計画に記載された取組がどの程度実施できたかを検証するため、各部局が施策の実施状況に関する「総合評価」を4段階で評価しました。
- ・基本計画に掲げた重点的施策に基づく実施施策280項目のうち、269項目について、基本目標に向かって施策を十分（又はかなり）実施することができ、全体の96.1%に成果が見られる結果（◎または○）となりました。
- ・重点的施策については、現総合計画に位置付けた取組を概ね順調に進捗できていると考えられます。

## ○指標・数値目標の達成状況

	達成状況	指標・数値目標数	割合
第1次推進計画 (H23～25年度)	達成	20	35.7%
	一部達成	4	7.1%
	未達成	32	57.2%
	計	56	
第2次推進計画 (H26～28年度)	達成	21	38.2%
	一部達成	2	3.6%
	未達成	32	58.2%
	計	55	
第3次推進計画 (H29～32年度)	達成	4(※H29末)	—
	一部達成	2(※H29末)	—
	未達成	—	—
	計	55	

※「一部達成」とは、1つの指標に複数の数値目標がある場合に、目標の一部を達成したものを指す。

## ○重点的施策の総合評価

基本目標	重点的 施策 (数)	実施 施策 (数)	総合評価			
			◎	○	△	—
1 都市と環境が調和するまち	15	57	25	27	5	0
2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち	13	33	13	20	0	0
3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち	12	39	16	22	1	0
4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち	14	84	24	60	0	0
5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち	15	67	17	45	3	2
計	69	280	95	174	9	2

<総合評価の凡例>

- ◎ 基本目標に向かって施策を十分に実施し、成果が上がっている。(成果が上がるのが確実である。)
- 基本目標に向かって施策をかなり実施し、成果が上がっているが、一部に課題も残っている。
- △ 基本目標に向かって施策を実施したが、成果が十分とは言えず、課題や改善点を残している。
- 基本目標に向かって施策を実施することができず、抜本的な見直しが必要である。

### 3. 基本構想の検証と将来像の総括

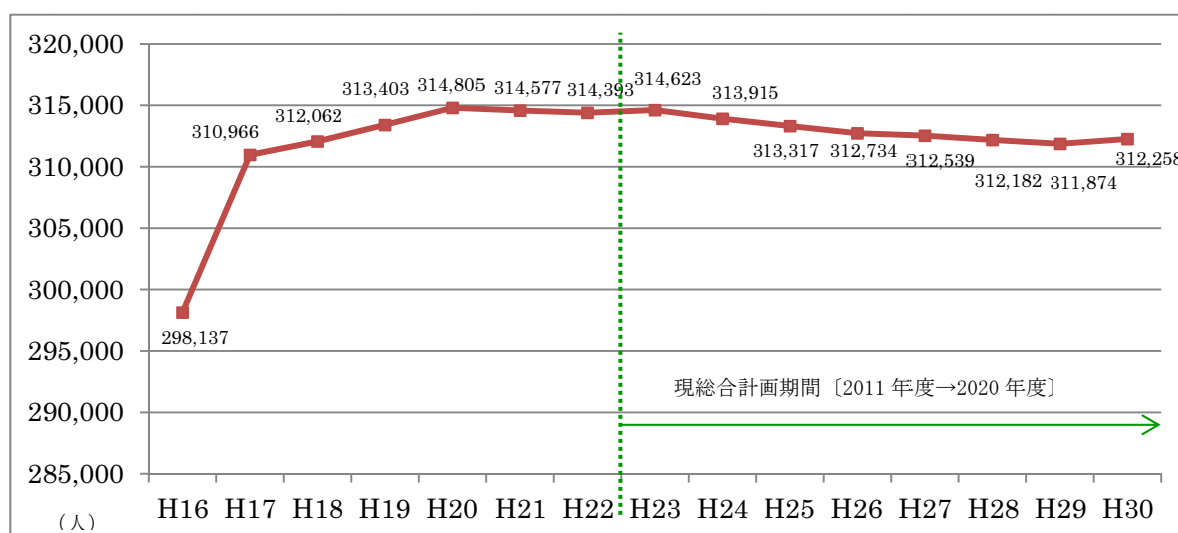
基本構想に掲げた将来都市像『みんなが誇りを持てるまち四日市』の実現に向けて、市民・事業者・市が一体となってまちづくりを進めてきた結果、現在の四日市市がどのような状態にあるのか、人口、経済、市民の声の3つの視点から検証を行いました。

#### (1) まちづくりにおける主要指標の動向

##### ①人口指標

##### (ア) 総人口の推移

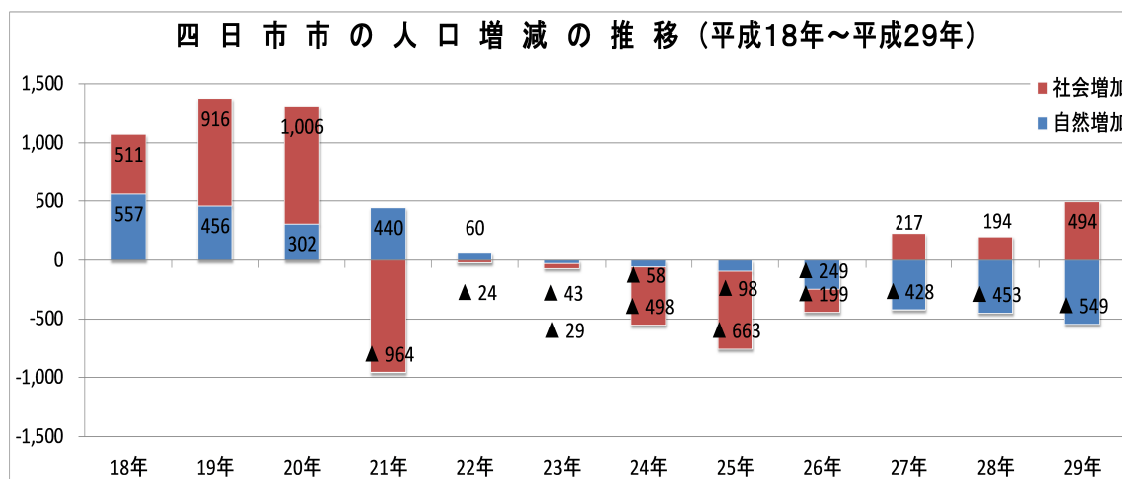
本市の総人口は、旧四日市市と旧楠町が合併した平成17年以降、ほぼ横ばいで、31万前半を推移しています。また、H23～H29における全国の人口増減率は-0.88%の状況の中、本市の人口増減率は-0.08%でありました。



※毎年10月1日現在の「住民基本台帳」に登録されている日本人・外国人の合計数

##### (イ) 人口増減の推移

本市の自然動態は、出生数を死亡数が上回る自然減が平成23年以降続いており、減少数は増加傾向にあります。一方の社会動態は、平成27年以降、転入数が転出数を上回る社会増へと転じています。

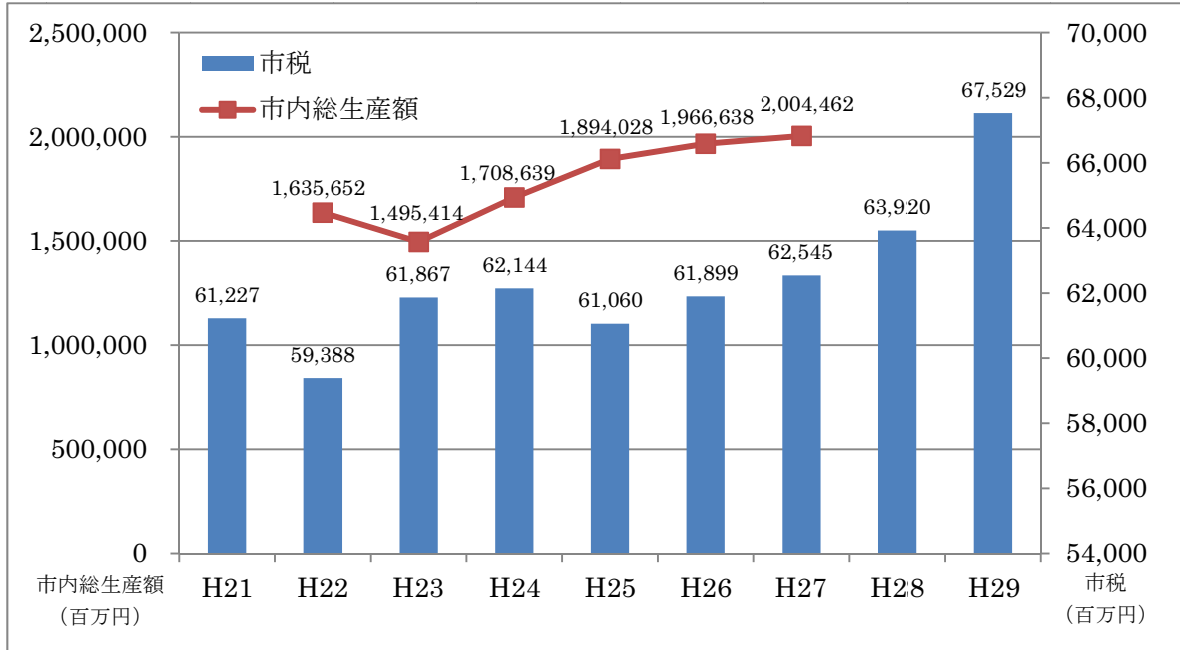


## ②経済・財政指標

### (ア) 市内総生産と市税の推移

本市の市税は、平成 20 年のリーマンショックをきっかけとした世界同時不況の影響を受け、平成 21、22 年度は大幅な減収となりましたが、平成 23 年度に事業所税の通年課税により増収となりました。近年は I T 関連企業の大規模設備投資により、償却資産が大幅な増収となっています。

また、市内総生産額については、平成 24 年度以降、堅調に推移しており、市内で行われた各経済活動部門の生産活動が活発に行われていることが伺えます。

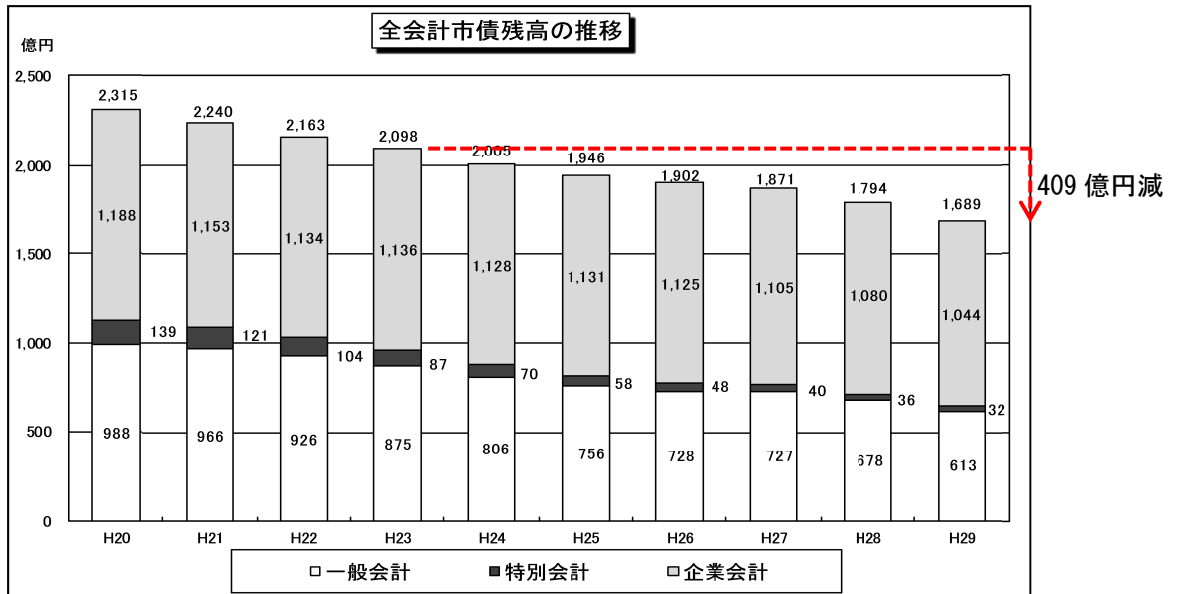


※市内総生産とは

1 年間に市内で行われた各経済活動部門の生産活動によって新たに生み出された付加価値の貨幣評価額をいいます。これは、市内の生産活動に対する各経済活動部門の寄与を表わすものであり、産出額から中間投入（原材料・光熱費等の経費）を控除したものです。

### (イ) 市債残高

全会計の市債残高は、平成 29 年度末には 1,689 億円となり、平成 23 年度末 2,098 億円から 409 億円減少しました。



## (2) 市民の声

毎年、市政アンケート調査を行い、市が行っている施策や事業（40 項目）を総合計画の5つの基本目標に従って分類し、市政全般の満足度・期待する取り組みについて、市民の評価や実感を把握するよう努めています。

### ①市政アンケート調査結果

※第45回（平成29年度） 有効回答者数：2,053人・有効回答率：41.1%

#### ア) 満足度の評価得点が高い上位5項目 ※満足度の評価得点の平均得点は3.06

1位	適正なごみ処理の推進	3.75	(前回1位)
2位	上下水道の整備	3.47	(前回2位)
3位	消防・救急体制の充実	3.37	(前回3位)
4位	観光の推進	3.35	(前回4位)
5位	検診・健康サービスの充実	3.24	(前回5位)

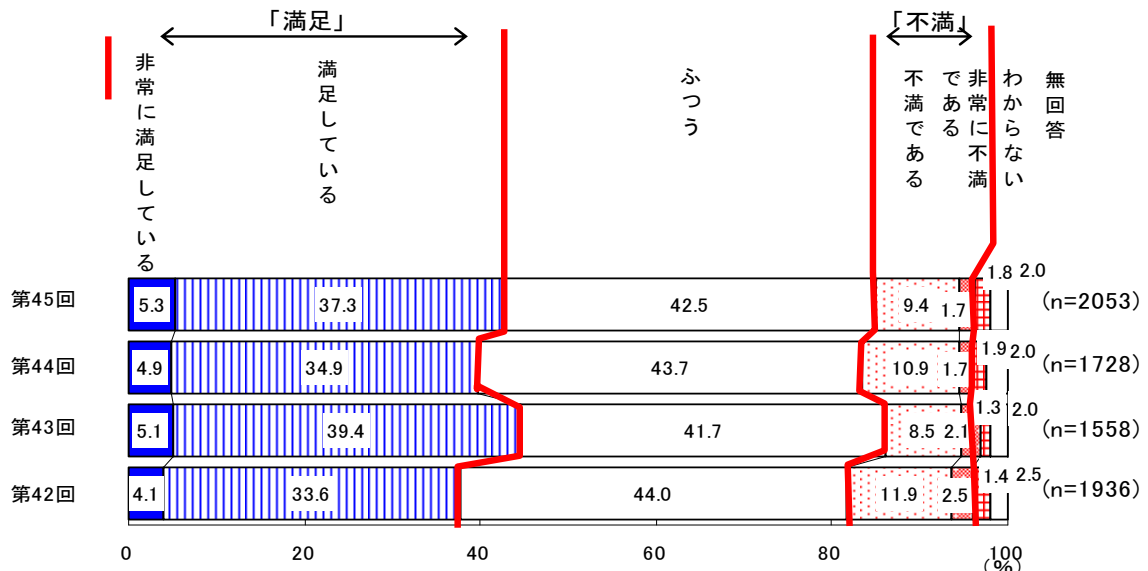
#### イ) 満足度の評価得点が低い上位5項目（不満）

1位	道路や橋梁の維持管理	2.83	(前回1位)
2位	住環境の充実	2.84	(前回9位)
2位	公共交通機関の利用のしやすさ	2.84	(前回8位)
2位	移動しやすい道路網の整備	2.84	(前回6位)
5位	中心市街地の活性化	2.89	(前回3位)

#### ウ) 特に期待する取り組みの高い上位5項目 ※全40項目の平均値は13.3%

1位	安心な医療体制の確保	29.4	(前回1位)
2位	高齢者福祉の充実	28.5	(前回2位)
3位	公共交通機関の利用のしやすさ	24.5	(前回7位)
4位	移動しやすい道路網の整備	22.4	(前回3位)
5位	子育て支援の充実	21.3	(前回5位)

#### エ) 四日市市に住んでいることについての総合的な満足度

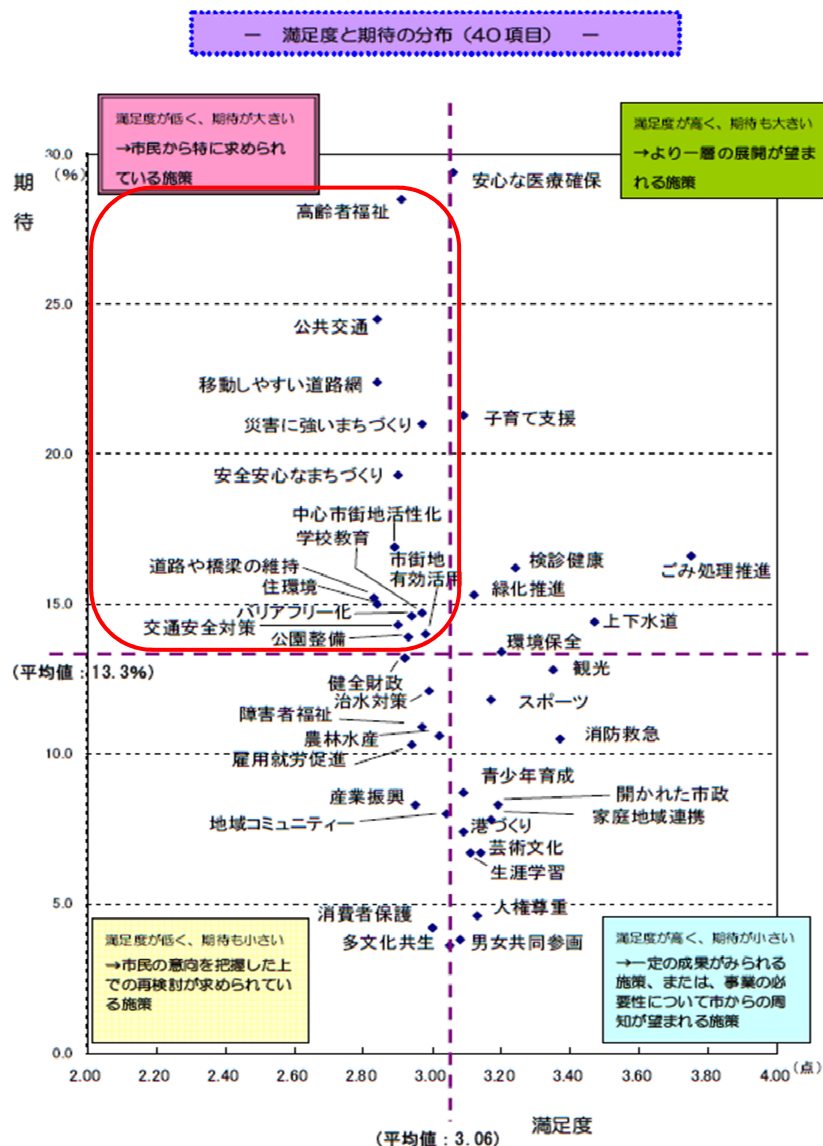




## ②アンケート結果の分析

総合計画全体の施策展開を通して、市民の実感につながったものを成果と捉えると、「適正なごみ処理の推進」「上下水道の整備」「消防・救急体制の充実」など市民の生活基盤を支える施策が高く評価された一方で、「道路や橋梁の維持管理」「住環境の充実」「公共交通機関の利用のしやすさ」など都市の暮らしやすさに関わる施策の評価が低い結果となりました。

また、「安心な医療体制の確保」「高齢者福祉の充実」など健康長寿社会の構築への期待が高く、9割弱の人は現状に不満を感じていないこと。さらに、市民から特に求められている施策が13項目あることも見えてきました。



### 市民から特に求められている施策 (13項目) 順不同

- 高齢者福祉の充実
- 公共交通機関の利用しやすさ
- 移動しやすい道路網の整備
- 災害に強いまちづくり
- 安全・安心なまちづくり
- 中心市街地の活性化
- 住環境の充実
- 道路や橋梁の維持管理
- 交通安全対策の充実
- 市街地の土地の有効活用
- バリアフリー化の推進
- 公園の整備・維持補修
- 学校での教育環境の充実

### (3) 総括

#### ① 総合計画の取組実績と各種指標から

基本目標ごとに行った基本的政策と重点的施策の検証を踏まえると、総合計画に位置付けた施策や取組について、概ね計画どおりの施策展開が行われたものといえます。その結果、多くの自治体が急激な人口減少に見舞われ“消滅可能性都市”と評される都市もある中で、本市は人口規模を維持しながら、経済・財政面でも全国有数の状況となるなど、活力のある暮らしやすい地方都市として一定の成果を示すことができました。

#### ② 市民の評価と実感から

市政アンケートからは、四日市市に住んでいることについての総合的な満足度について、4割強の人が四日市市居住に対して総合的に満足していること。9割弱の人が現状に不満を感じていないことが分かりました。

将来都市像『みんなが誇りを持てるまち四日市』が実現したのか、具体的に測ることは難しい面がありますが、人口規模を維持しながらも、多くの市民が四日市市での暮らしに満足され、あるいは不満がないことが、現総合計画の大きな収穫であったといえます。

#### ※基本構想より抜粋

以上のようなまちづくりを進めることにより、市民や事業者など、本市に関わりを有するあらゆる主体が「住んで良かった」「住み続けたい」と実感でき、市外からも「訪れたい」「住みたい」と思ってもらえる、「みんなが誇りを持てるまち四日市」を実現していきます。

#### ③ 次期総合計画の策定に向けて

現総合計画のもと、将来都市像『みんなが誇りを持てるまち四日市』の実現に向けて積極的なまちづくりを進めてきた結果、上記総括①・②で述べたように、本市は人口規模を維持しながら、経済・財政面でも全国有数の活力のある暮らしやすい地方都市として成長を遂げるとともに、多くの市民の方から四日市市での暮らしに満足され、あるいは不満がないという評価も得られました。

一方で、インフラ面ではリニア中央新幹線、新名神高速道路や東海環状自動車道の整備による交流圏の飛躍的拡大が現実味を帯び、内陸部への産業集積や経済のグローバル化など、本市を取り巻く環境の変化が急速に進展する中、人口減少社会の本格的な到来をはじめとした時代の潮流と社会経済環境の動向を総合的に勘案すると、対応すべき課題の多くは、これまでの取組の積み上げだけでは解決できず、発想の転換により、新たな課題解決方法を創造する必要があります。

## ○時代の潮流と社会経済環境の動向

1. 少子高齢化社会と人口減少社会の本格的な到来
2. 人生100年時代に向けた健康意識の高まりと働き方の見直し
3. 価値観やライフスタイルの多様化と生活格差の拡大
4. 「2020年改革」で大きく変動する教育環境と未来を拓く人材の育成
5. 成長の時代から成熟の時代への構造転換と社会情勢の変化スピードの加速
6. IOT・AI・ロボット等の劇的な技術革新による「第4次産業革命」への対応
7. グローバリゼーションの進展に伴うアジア圏における都市間競争の激化
8. 食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題の深刻化
9. リニア・高速交通網整備の進展による「スーパー・メガリージョン」の形成
10. 南海トラフ地震等の国難規模の災害への備え
11. インフラ・家屋等の老朽化と都市空間の遊休化
12. 「持続可能な社会」の実現（SDGs）に向けた取組の広がり

そして、このような社会経済環境の大きな変化の流れの中にあっても、市民、事業者、行政が将来に向けて共に夢を描ける、「31万人元気都市」の実現のためには、明確なビジョンを持って四日市の未来予想図を描き、具体的戦略を考え、それらを市民や事業者のみなさんと共有しながら、新たな取組を始める必要があります。

平成というひとつの時代が終わりを告げ、新時代が幕を開けようとするいま、様々な時代の潮流の変化に対応すべく「長期展望を見据えた戦略的な計画」、「時代に即応する機動的な計画」、「新しい発想に基づく創造的な計画」をキーワードに、日本の活力を支える中部エリアにおける西の中核都市として飛躍するため、新しい時代にふさわしい総合計画を策定し、地に足の着いた持続可能で市民満足度の高いまちづくりを進めていくこととします。